

IV グループインタビュー

内容

1 アンケート結果とグループインタビューの目的、方法	1
1.1 アンケートの結果から	1
1.2 目的	1
1.3 対象	1
1.4 モニタの選定方法	1
1.5 グループインタビューの実施	2
2 結果	4
2.1 「ごはん食」の頻度が多い理由、少ない理由	4
2.2 「ごはん製品」へのニーズ	5

1 アンケート結果とグループインタビューの目的、方法

1.1 アンケートの結果から

一人暮らしの人は、複数同居世帯と比べ、一般に「ごはん食」頻度が少ない。一人暮らしは、高齢者だけでなく、若年層でも増えていくと予想されており、その結果、一人暮らしの割合が増えるにつれ、米の消費が減ることが予想される。

一人暮らしの「ごはん食」が少ない理由としては、アンケートからは、(パンと比べ)軽く済ませられないことと、自炊する場合には手間がかかる(食事者1人あたり調理コストが大きい)ことが背景としてあげられる。

一方で、一人暮らしであるにも関わらず、「ごはん食」の頻度が多い人もいる。そこで、その背景・理由をグループインタビューによって探ることとした。

1.2 目的

家計調査等に基づく主食用米の消費量の将来推計の参考のため、また今後の主食用米の消費拡大のための政策の検証のため、次のことを探る。

- ・ごはん類を食べる頻度が平均より高い人における、摂取頻度の高い背景・理由
(ごはん類を食べる頻度が平均より低い人における、摂取頻度の低い背景・理由)
- ・「ごはん製品」による「ごはん食」頻度の寄与と、「ごはん製品」へのニーズ

1.3 対象

A 群：単身・20～30代・男性。「ごはん類」週12回以上、かつ「ごはん製品」選択週3回以上の人。5名 x 2グループ。

B 群：単身・20～30代・男性。「ごはん類」週7回以下の人。5名 x 1グループ。

参考：・「ごはん食」頻度の平均は20代男性12.3回。30代男性11.7回。

一人暮らしに限定すると20代男性10.9回。30代男性9.9回。

・「ごはん製品」頻度の平均は20代男性1.7回。30代男性1.4回。

一人暮らしに限定すると、20代男性1.9回。30代男性3.0回。

1.4 モニタの選定方法

・マイボイスコム(株)登録モニタのうち、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県に住む、一人暮らし、かつ20-39歳の男性を対象にマイボイスコムから電子メールを送り、webアンケートへの回答を求めた。

- ・年齢、職業などの個人属性
- ・日ごろの調理の頻度(10月webアンケートQ1と同じ)

- ・ごはんを食べる頻度（10月 web アンケート Q2 と同じ）
- ・ごはん製品を食べる頻度（10月 web アンケート Q6 と同じ）
- ・座談会（グループインタビュー）への参加の意思

このうち、A 群または B 群の基準に該当し、かつ座談会への参加意思を表明した人に、電子メールおよび電話により参加依頼と日時調整を行った。

これにより、所定のモニタ（A 群 5 名 x2 グループ、B 群 5 名）を確保した。

1.5 グループインタビューの実施

グループインタビューの実施時間は、おおむね 1 時間 30 分である。

冒頭に、モデレータ（調査員）が以下の説明を行った。

■モデレータによる説明

この座談会は、将来の日本全体の米の消費量を予測するための調査プロジェクトの一環として実施しています。

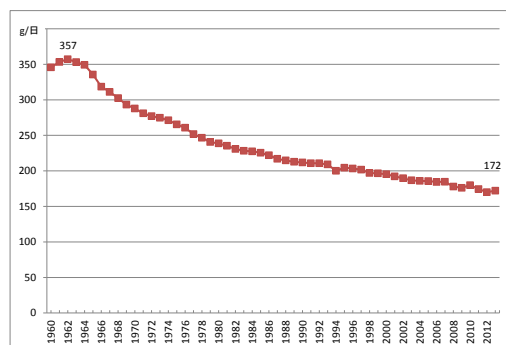
国民一人当たりの米の消費量は、減少を続けています（図 1）。いまから約 50 年前の 1962 年には、1 人 1 日あたり 357g 食べていました。その後減少を続け、最近の 2013 年は、1 人 1 日あたり 172g です。

また一般的に、一人暮らしの人は、主食として「ごはん食」の頻度が少ない傾向があります（図）。ただし人によって、多い方もいれば、少ない方もいます。

いま、ここにお集まりいただいたのは、一人暮らしであって、「ごはん」を食べる頻度が比較的多い方々です。（A 群の場合。B 群の場合は“比較的小ない方々です”）

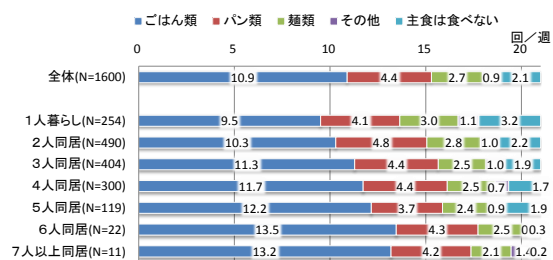
これから、皆さんの日ごろの「ごはん」の食べ方やその背景についてお尋ねしたいと思います。

日本人の米の 1 日あたり消費量の推移



(注) 出典：農林水産省『食料需給表』
数字は精米換算。酒・みそ・米菓等の加工品による消費を除く。

一週間における主食選択頻度（3食全体=21食中）



(注) マイボイスコムに依頼したwebアンケート（2014年10月実施）の結果から

その後、以下の質問を行い、基本的に一人ひとり発言してもらったうえで、モニタ相互の共通点・相違点等について、意見交換を促した。

■質問：A群に対して

(1) 主食の選択とその背景

Q1 朝食、昼食、夕食、それぞれの主食の選択について教えてください。

Q2 あなたがパンや麺ではなく、「ごはん」を選ぶのはなぜですか。

Q3 あなたが子どものころ（小学生のころ）の朝食、昼食、夕食、それぞれの主食の選択はいかがでしたか。

Q4 自分自身も含め、みなさんが、ごはんを選ぶ回数が比較的多いのは、どうしてだと思いますか。

(2)「ごはん製品」の利用について

Q5 どんな「ごはん製品」を、どんな機会に食べていますか。

Q6 いま「ごはん製品」を食べている機会に、「ごはん製品」が入手できなかったとしたら、どのような食事をするとと思いますか。

Q7 現在の「ごはん製品」への満足度はいかがですか？ どのような「ごはん製品」があったらよいと思いますか。（たとえば価格、ごはんの量、原料米の産地・精製度、健康との関連、など）

■質問：B群に対して

(1) 主食の選択と背景

Q1 朝食、昼食、夕食、それぞれの主食の選択について教えてください。

Q2 みなさんの「ごはん食」の頻度が少ないのはなぜですか？

Q3 あなたが子どものころ（小学生のころ）の朝食、昼食、夕食、それぞれの主食の選択はいかがでしたか。

(2)「ごはん製品」の利用について

Q4（利用がある場合）どんな「ごはん製品」をどんな機会に食べていますか。

Q5（利用がある場合）いま「ごはん製品」を食べている機会に、「ごはん製品」が入手できなかったとしたら、どのような食事をするとと思いますか。

Q6 現在の「ごはん製品」への満足度はいかがですか？ どのような「ごはん製品」があったら選択したいと思いますか。（たとえば、価格、ごはんの量、原料米の産地・精製度、健康との関連、など）

2 結果

以下、インタビューでの回答の概要と、そこから考えられる仮説をまとめる。

2.1 「ごはん食」の頻度が多い理由、少ない理由

- ・A群では、「ごはんが好きだから」「腹持ちがよいから」「(パンや麺より)たくさん食べられるから」との回答が多い。

(仮説) A群は、たくさん食べることに前向き。

- ・B群では、ごはん食が少ない理由として、「ごはんが好きではない」「パンのほうが好き」といった回答はなかった。食事づくりや片付けの手間を挙げる意見が多い(4/5名)。朝食時に食欲のないことを挙げる人(2/5名)もいる。それとは別に、ダイエット等のため、ごはんだけでなく炭水化物全般を控えている人もいる(2/5名)。

(仮説) B群にとって、「ごはん食」の障害になっているのは、「手間」と食欲不足である。

ごはんやパンに対する嗜好が障害ではない。

- ・アンケート(Ⅲ)では、ごはん類以外を選択する理由として「ごはんより軽く食べられるから」との回答が多く、特に朝食では理由として最も多かった。しかし、このグループインタビューのB群では、「軽く食べられるから」の趣旨の発言をした人は1名しかいなかった。A群では、食事作りや片づけの「手軽さ」を求める人は多かったが、「軽く済ませたい」人はいなかった。

- ・A群は、就職後に習慣的に運動をするようになった人が多かった(6/10名)。その動機は、事務労働に伴う運動不足の解消、ストレス解消、体力維持などさまざまであるが、「ごはん」をたくさん食べたい背景となっている。それらの人(6/10名)とは別に、「運動すべき」と思っている人や、スポーツのチームに入っている人もいた。

(仮説) A群は運動をする人が少なくなく、たくさん食べることに前向きになり、結果的にごはんを多頻度で食べている。

- ・子どものころの経験(朝食での「ごはん」「パン」の選択や、昼食での米飯給食の選択)と現在の「ごはん」の選択の間には、相関が見いだせなかった。そのため、このグループインタビューの結果からは、「子どものころご飯を食べていたから、その習慣が続いて、いまもご飯を食べている」とまでは言えない。

表 グループインタビュー参加者における子どものころと現在の主食の選択

朝食

子どものころ \ 現在	ごはん食が多い	ごはんと他の主食半々	その他主食が多い
ごはん食が多かった	1	1	4
ごはんと他の主食半々	2	0	1
その他主食が多かった	1	2	3

昼食

子どものころ \ 現在	ごはん食が多い	ごはんと他の主食半々	その他主食が多い
ごはん食が多かった	1	0	0
ごはんと他の主食半々	6	0	2
その他主食が多かった	1	3	2

2.2 「ごはん製品」へのニーズ

・A群・B群ともに、就業中の単身者であるため、特に朝食において食事を準備したり片づけたりするための時間を確保しづらい。A群は、出勤日の朝食にコンビニおにぎりを利用する人（3/10名）、包装米飯を利用する人（1/10名）がいた。出勤日に炊いたご飯を食べる人は少数であった（1/10名）。そのほかの人はパン、シリアル、または欠食であった。（仮説）A群が朝の「ごはん食」を維持するために、「ごはん製品」は重要な役割を果たしている。

・A群、B群ともに、「ごはん製品」のおいしさには満足している人が多い。弁当については、ごはんの量が少ないと感じる人が4/10名。少数であるが、栄養バランスなど健康によくないとのイメージを持つ人もいる（A群第1グループの2/5名）。

（仮説）「ごはん製品」を通じて米の消費拡大をしていくうえでは、とくに弁当において、ごはんの量や、栄養バランス等の改善が有効である可能性がある。